



難しすぎるM&Aクイズ（第2回）



M&A

Onlineは2015年7月のサイト開設以来、M&Aを基軸とした法務・財務などの実務情報を充実させるとともに、広範な読者ニーズに対応するため、経済・産業や企業の動きを独自の視点で発信しています。

2020年7月に開設5周年を迎えるにあたり、日頃の感謝を込めて、「月間350万PV達成記念&サイト開設5周年記念キャンペーン」を実施中です。

応募はこちらから

キャンペーンに連動して、難しいM&Aクイズを作問してみました。今回は「株式価値評価」の分野から出題です。是非チャレンジしてみてください。

問題

株式価値評価において加重平均資本コスト（WACC）を算出する際に、マイルス・エツツェル式（ME公式）を採用する場合、類似会社 β のリレバー計算は

となる。○か×か答えよ

（解答・解説は次ページ）

解答

解説

誤り。文中の算式は「ロバート・ハマダ式」によるものである。

マイルス・エツツェル式を採用する場合、類似会社 β のリレバー計算は

となる。

仮定の前提において、ロバート・ハマダ式は、「負債金額が一定で保持される」、「負債 $\beta = 0$ 」とし、マイルス・エツツェル式は、「負債比率が一定である」、「負債 $\beta = 0$ 」としている。

なお、実務上は両者はほぼ同等に普及しており、どちらが正解というものではない。

M&A

Onlineの読者なら簡単？だったでしょうか。クイズが難しいと感じた方は、是非「M&A事典」のコンテンツをお読みください。他社のM&A戦略が気になるという方は、「M&Aアーカイブス」にアクセスしてみてくださいね。

前回の問題を解いていない方はこちら